Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0003　福岡市中央区春吉
1-16-8 VEGA天神南601号
TEL　092（731）2372
FAX　092（731）2373

No.137
2018年9月26日

〈URL〉http://www.peshawar-pms.com（4月よりＨＰのアドレスが変わりました）　〈E-mail〉peshawar@kkh.biglobe.ne.jp

表紙絵　ザフロンの配達／画・甲斐大策

温暖化と干ばつと戦乱は密接に関連	中村　哲
有益だった朝倉視察と事務上の課題の解決	アブドゥル　サーブル　サーダト
実り豊かな視察と心に残る日本の友人たち	エンジニア　ハニフラ　タヒリ
現地との距離が縮まる	東　達也
アフガニスタンより政府、FAO、PMSの方々を迎えて	村上　優
豊かな大地と幸せな暮らしを願っております	伊藤順子
水のよもやま話（3）クナール河と河童	中村　哲
◉カラー特集　お蔭さまで、みんな元気に働いています	

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

温暖化と干ばつと戦乱は密接に関連

――絶望を希望に変えるＰＭＳ方式の普及活動

ＰＭＳ（平和医療団・日本）総院長／ペシャワール会現地代表　中村　哲

農地の乾燥化と壊滅

暑い夏でした。世界中で温暖化と気候変化が実感された夏でした。

作業地のナンガラハル州は六月に記録的な猛暑となり、室内気温が連日、四十数度を記録しました。熱波でずいぶん犠牲が出たようです。五、六月のラマザン（断食月）中は日本で過ごすつもりで、逃れるように帰国すると、日本でも異常高気温が続き、激しい集中豪雨で異例の災害が起きていることを知りました。西日本では、広範囲にわたる豪雨で二〇〇人以上が亡くなり、普段氾濫が考えられない川が溢れました。昨年七月、山田堰のある朝倉で激しい水害があったばかりです。これには驚きました。

またエアコンなしには過ごせないような暑気が二ヵ月以上続くなど、以前では考えられなかったことです。他人事ではなくなってきたと思いました。

気候変化はアフガニスタンにおいて、全体に土地の乾燥化＝沙漠化を促します。集中豪雨や洪水被害も頻発しますが、全体としてはこの乾燥化が最大の問題です。東部アフガンでは、地下水を利用する灌漑（かんがい）がほぼ不可能になり、クナール河などの大河川からの取水に頼らざるを得ません。ナンガラハル州では全農地のうち、天水に頼るもの六五％、灌漑農地三五％とされ、そのうち地下水利用のカレーズ灌漑が五％とされています。今年の異常乾燥で天水と地下水に依存する地域が全滅したので、全体で七〇％の耕地を失ったことになります。残る農地はカブール河、クナール河ら大河川からの取水によるものです。

涸れた地下水路（カレーズ）2001年８月

普及活動へ向けて――ＰＭＳ方式と訓練所

この取水の際に障害となるのが、不安定な川の水量です。急流河川に加えて、気候変化によって渇水と洪水が同居する状態で、取水口がすぐ壊されて一年と持つ例はなく、技術的に難しくなっていたのです。

これまでＰＭＳは、「実際に使える単純構造の取水設備」をめざしてきました。アフガンの実情に照らし、地域で維持できるよ

マルワリードⅡ主幹水路1600m地点。酷暑の中、冷たい水に浸かることのできる植樹は作業員の中で人気がある（2018年６月21日）

う、低コスト・単純でありながら十分機能するものを理想としてきました。この結果、最近ではかなり完成度が高くなり、多くの地域で成功しています。初めの頃と比べると、格段に強く機能的で、かつ安定したものになっています。建設の手順や材料と石材輸送らも定式化し、より一般化した形で設計ができるようになりました。

ＰＭＳでは、今後設計条件などを詳しく検討し、ある程度の柔軟性を持たせ、どこ

改修後のカマ第二堰。山田堰に機能も形状も似ており生きたモデルとなっている（2018年２月28日）

マルワリードⅡの護岸線は全長8.5km。6㎞以降の護岸工事。締め固めをしながら、ただひたすら土砂や砂利を積む（2018年８月８日）

沈砂池Ⅲ近くに水門番小屋を建設中（2018年８月７日）

でも使えるものにしていきます。この普及活動の一環で、今年一月から「訓練コース」が始まっています。現在は、ＰＭＳ方式の紹介と現場見学で、地域の農民指導者、水主、地方自治体の技術者らを対象にしています。種まきが始まったばかりですが、大変好評です。

干ばつは至る所で厳しく、受講生はみな、水のある農地を夢見て参加します。その結果、絶望的な気持ちで来たところが、「これ

でやれば、何とかなる」と、確信に近い希望を得て、村に帰ります。次の段階では、実際に石の並べ方、用水路のライニング（床面敷設）、蛇籠（じゃかご）の作り方や詰め方、植樹管理などの実作業をしながら訓練する計画を立てています。

堰（せき）の教材は山田堰（福岡県朝倉市）の模型と写真の多い手引書が活躍しています。また、最近改修を終えたカマ第二堰は機能的にも形の上でも山田堰に近く、見学時に説明しやすくなっています。普及は水系が同じ隣接地域から行うのが効率的で、現在近隣のラグマン州、クナール州などに働きかけています。

計画はＦＡＯ（国連食糧農業機関）とＰＭＳの共同企画で行われ、少しずつですが現実味を帯び始めています。

訓練所でPMS方式について講義をする中村医師（2018年７月２日）

秋の工事

秋には現在のマルワリードⅡ（カチャラ堰流域）の継続と共に、カマ第一堰の改修が始まります。カチャラ堰流域は、主幹水路五・五kmと五ヵ所の主要分水路を完成、全域が灌漑可能となっていますが、一〇km以上の植樹、三・五kmの護岸など大きな工事が残っており、今後約二年をかけて仕上げていきます。カマ第一堰は第二堰と同様な作りですが、これによってカマ郡七〇〇〇ダジは安定灌漑を長期に保障できるものとなります。

訓練の終了時にはスコップや鎌、長靴などを支給（2018年８月16日）

マルワリードⅡ主幹水路4.8kmまでの通水を祝う中村医師と職員や作業員たち（2018年５月３日）

著しく浸食が進んだベラ村。護岸工事が急がれる（2018年7月5日）

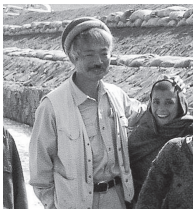
問題の先送りは許されない

最近の研究で、東部アフガンの過去六十年間の気温上昇は約一・八度、他の地域の約二倍の速さで温暖化が進行しているという恐るべき報告もあります。

今思い返すと、二〇〇〇年に始まる大干ばつの顕在化は、世界を席巻する「気候災害」の前ぶれでした。既に海水面上昇による島嶼（とうしょ）の水没、氷河の世界的後退、北極海の氷原融解などが伝えられ、陸上では台風とハリケーンの巨大化、森林火災の頻発、大規模な洪水と干ばつなどが各地で報ぜられていました。それでも、責任の所在がはっきりしない「気候変化」は真剣に問題にされにくく、CO_2削減を敵視する経済至上主義も、依然として根強いものがあります。それは自然を無限大に搾取できる対象と見なし、科学技術信仰の上に成り立つ強固な確信です。実際、近代的生活は、産業革命以来の大量生産＝大量消費の流れの上にあり、それを一挙に覆す考えは、多くの人々にとって俄かには受け入れ難いものがあるからです。

だが問題の先送りはおそらく許されないでしょう。放置すれば事態は不可逆の変化になり得ます。温暖化と干ばつと戦乱の関係は、もはや推論ではありません。治安悪化の著しい地帯は、完全に干ばつ地図と一致します。その日の食にも窮した人々が、犯罪に手を染め、兵員ともなります。そうしないと家族が飢えるからです。――一連の動向は世界の終末さえ連想する絶望的なものがあります。干ばつの克服は、生易しいものではありませんが、力を尽くして水の恩恵を実証し、希望を灯し続けたいと考えています。

よろしくご協力のほどを切にお願い申し上げます。



中村（なかむら）　哲（てつ）…九州大学医学部卒。専門＝神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、一九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干（かん）ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千六百ヵ所以上）事業を実施。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始、〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通。ダラエヌール診療所の年間診療数約四四、五〇〇人（二〇一七年度）。

◎現地スタッフからの便り

有益だった朝倉視察と事務上の課題の解決

PMS事務所責任者
アブドゥル サーブル サーダト

初めての日本訪問

まず初めに、皆様に心よりご挨拶を申し上げます。

日本はこの世界において、人類への貢献に真摯に努めている数少ない国の一つです。私がアフガニスタンの友好国日本を訪れたのは今回が初めてで、全てが目新しく心踊るもので、大変充実した日々を過ごしました。

二〇一八年の七月二七日から八月五日までの旅程で訪れた日本への旅は、私にとって生涯忘れられないものとなりました。

私たちは、日本の友人や支援者の方々から素晴らしい歓迎を受けました。皆さんはとても友好的で、日本の方々が示してくれた暖かいもてなしを私は決して忘れません。またアフガニスタンの治安情勢が悪化していた時期に現地で働いていた日本人ワーカーOB達と再会できたことも大変嬉しかったです。

歓迎会翌日、ペシャワール会日本人スタッフの方達と一緒に朝倉の梨・葡萄園を訪問、果樹園のオーナーの方に案内して頂いた後、養蜂場を視察。その後、数百年前に築かれた三連水車を見学後、山田堰を訪ねました。土地改良区の徳永理事長が堰について詳しい説明をしてくださり、私たちにとっても大変有益な情報を得ることが出来ました。

訪日中、私は日本の皆さんから多くのことを学びました。故郷を愛する気持ち、もてなしの心、互いへの敬意など、私たちは日本人から学ばなくてはなりません。

また現地事務所で抱えていた技術的な問題や会計部門の課題も、PMS支援室との二日間の会議で互いに解決することができ、十分な成果を得ることが出来ました。

日本の友人達やPMS支援室スタッフとの観光も楽しみました。自然の景観や白川水源地は素晴らしく、また火山である美しい阿蘇山にも行きました。

今回の日本訪問の旅では様々な事を体験し、多くの事を学びました。また日本の方々がアフガニスタンのことをとても愛してくれていて、日本はこれまでも、そしてこれからもアフガニスタンの真の友好国であると感じました。

日本とアフガニスタンの友情は永遠です。心より敬意をこめて。

中村哲医師の作品

アフガン・緑の大地計画
伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業　【改訂版】
Peace (Japan) Medical Services & ペシャワール会
B5判並製・256頁・オールカラー　1700円（税込）

医者、用水路を拓く
アフガンの大地から世界の虚構に挑む
【6刷】1800円
ダラエ・ヌールへの道【5刷】2000円
ペシャワールにて【7刷】1800円
辺境で診る辺境から見る【5刷】1800円
医者 井戸を掘る【12刷】1800円
医は国境を越えて【8刷】2000円
石風社　福岡市中央区渡辺通2-3-24　電話092(714)4838

人は愛するに足り、真心は信ずるに足る アフガンとの約束
中村哲／澤地久枝（聞き手）　2000円
岩波書店　東京都千代田区一ツ橋2-5-5　電話03(5210)4000

天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い
中村哲　1600円
NHK出版　東京都渋谷区宇田川町41-1　電話03(3464)7311

税込表記のあるもの以外はすべて本体価格（税別）です

アフガニスタン DVD VIDEO
用水路が運ぶ恵みと平和
朗読　吉永小百合
3000円（税＋送料込）

実り豊かな視察と心に残る日本の友人たち

ＰＭＳジャララバード事務所会計責任者
エンジニア　ハニフラ　タヒリ

現場技術者から会計責任者に

私の名前はハニフラ　タヒリで、二〇〇〇年九月からＰＭＳに勤めています。最初の一年間はソルフロッド、ロダット、アチン、ダラエヌールの井戸建設事業の現場技師として働き、その後長嶋さんが会計部門で勤務を始めた時に私もそちらに会計担当として異動しました。二〇〇一年から二〇〇八年までの期間、馬場さん、川口さん、松永さん、西さん、神代さんなど多くの日本人ワーカーと一緒に仕事をしました。二〇〇八年に伊藤さんが亡くなり、日本人ワーカー達は日本に帰国しました。それにより私の役職は会計責任者になりました。そして二〇〇九年に村井さんがＰＭＳの会計部門の担当になり、二〇一五年まで彼と一緒に働きました。二〇一六年に村井さんから鈴木さんに担当が代わりました。その後、現地の会計部門から日本人はいなくなり、現在は福岡のペシャワール会事務所で日本人スタッフがその業務を行なっています。以上がこれまでの私のＰＭＳでの職歴です。

今回、ジア先生を通してＦＡＯ事務所主催日本公式訪問の知らせを受けました。二〇一八年七月二七日に日本行きの査証を取得した後、二八日夜に関西空港に到着しました。そこにはペシャワール会のメンバー数名が迎えに来て下さっていました。私はその時の事を決して忘れません。

二九日、福岡市内でペシャワール会が歓迎会を催して下さり、そこには懐かしい日本の友人達もいて、大変感激しました。日本の皆さんはとても親切にして下さいました。

翌日、山田堰を訪問し、中村先生からの説明を受けました。二二〇年前に築造された堰が、今も同じかたちで存在し使われていることに私は深い感銘を受けました。

アフガニスタンには二〇〇三年に着工し二〇一〇年に完成したアーベ　マルワリードという名の灌漑用水路があります。これは中村先生がアフガニスタンで最初に建設した水路です。その後もカマ第一、カマ第二、カシコート、シギ、ミラーン、マルワリード第二堰、用水路などが建設されました。

日本滞在中の体験を職員たちに伝えるハニフラ技師（2018年８月16日）

忘れ得ぬ心の交流

山田堰視察後、養蜂園を訪ね専門家の方の説明を受けました。煙で蜂をおとなしくさせることや、収益性の高い養蜂事業に大変興味を覚えました。それから水車（アフガニスタンではチャルハと呼んでいます）

（13ページに続く）

上：アフガニスタン政府、FAO、PMS職員一行の山田堰視察。徳永氏の説明に続き、彼らの尽きない質問に対応する中村医師（2018年７月30日）

上：ペシャワール会事務局での交流会。PMS職員と事務局員との親睦を深めた（2018年８月２日）

右：６月８日、東京で中村医師に授与された土木学会技術賞。中村＝PMSへの表彰であると、中村医師からPMSへ手渡された（2018年８月２日）

【カラー特集】お蔭さまで、みんな元気に働いています

調節池Ⅲ。主要な工事は完了し、二段目の蛇籠積みと水やりが続けられている。憩いの場として美しく仕上げる
（2018年 5 月28日）

ベラ延長路610mからベラ村の既存水路へ送水。現在、広大な地域の開墾が始められている（2018年 7 月 1 日）

上：ガンベリ農場の小麦（2018年４月16日）

上：ミラーン訓練所にて、日本から持ち帰った土木学会賞の盾を前に受賞を祝福。PMS職員は大いに励まされた（2018年８月13日）
下：日本の野ばらに似た種類。真白な花を咲かせている。ガンベリ事務所（2018年４月16日）

右：マルワリードⅡ用水路の調節池Ⅲ（3.6km地点）より下流域を望む。湿地が消失し、開墾が進んでいる（2018年７月17日）

マルワリードⅡ堰の護岸始点から5.5km地点。洗掘の激しい水制先端に巨礫を置く中村医師（2018年７月20日）

第６期生はクナール、ヌーリスタン州からの訓練生。終了時に農具などを手渡す中村医師（2018年７月８日）

とその修復事業を見学しました。日本の水車は木製でしたが、我々PMSは同じ考え方を取り入れた鉄製の水車を使っています。

水車の後は果樹園に行き、ブドウや梨、桃など果物を栽培している専門農家の方から話を聞いて多くのことを学びました。続いて農産物の直営市場を見学しました。農家の方達が自分で生産したものを持って来てここで販売することが出来るのです。直営市場視察のあと、柳川で木製の船に乗って一時間ほどかけて水路を巡りました。また、阿蘇山で火口を見たりしました。日本はどこに行っても空気が澄んでいて、緑が多いと感じました。

福岡に戻るとペシャワール会事務局で交流会が開催され、大勢の事務局の方々やワーカーOBが参加し、私たちにアフガニスタンやPMSの事について色々と質問をして下さいました。私たちアフガン人スタッフはそれぞれに、日本の皆さんがアフガニスタンを支援して下さって大変嬉しく思っていると伝えました。またある親切な女性事務局員の方が、アフガニスタンをとても愛していると言って下さいました。アフガニスタンの人々に日本の方々がそのような気持ちを抱いて下さっていることを私は生涯忘れません。

今回の日本への公式訪問は大変興味深いもので、日本の人々はよく働き、道徳心があると感じ入りました。このような日本の価値観について書かれている書籍はまだまだ数が十分でないと思いました。

ドクターサーブ中村やワーカーの方達をはじめとするペシャワール会の皆さんには、これからも苦難の中にいるアフガニスタンの人々への援助を続けて下さることをお願い致します。我々PMSのアフガン人スタッフは皆正直者で、中村先生や全ての日本人が大好きです。

皆さんには、台風が日本に上陸するなど大変な時に私たちを歓迎して下さったことに心から感謝申し上げます。

最後に、私のこの手紙を通じてPMS全員の感謝を皆様にお伝えします。

本当に有難うございました。

◎ワーカー通信

現地との距離が縮まる

PMS支援室
東　達也

台風の中での歓迎会

七月二八日から八月四日の八日間、FAO協力事業でアフガニスタン政府から水・エネルギー省、地方復興省、農業・灌漑省から一名ずつ、FAOから三名、PMSからジア医師、サーブルジャン、ハニフラさんの計九名が来日されました。

今回の旅程は関西空港から始まり、西向きに進んだ台風12号と共に福岡に上陸しました。在来線が運休する中での移動で、初日の歓迎会開催が心配されましたが、なんとか開催され、その後は天候にも恵まれて幸いだったと思います。期間中は福岡県朝倉市の山田堰、三連水車、藤井養蜂場、三連水車の里（道の駅）、浮羽市の春光園（ブドウ栽培園）、柳川の川下り、熊本の白川水源、阿蘇山火口の視察を行いました。山田堰土地改良区の徳永理事長はじめ各施設では丁寧にご説明いただき、たくさんの質問にも対応いただき感謝の念に堪えません。

金閣寺観光。PMS職員３名とワーカーOB、PMS支援室職員（2018年８月４日）

寸暇を惜しんで打合せ

今回来日したＰＭＳ職員のサーブルジャンはジア先生の補佐で事務方の管理者をしています。ハニフラさんは会計責任者です。私達ＰＭＳ支援室が毎日連絡をとる二人で、週に二度以上は電話をし、メールのやりとりをしない日は、休み以外ほぼありません。ＰＭＳ職員は現在一〇〇名、現場作業員（日給）は毎日約二四〇名に上ります。事業地は複数あり、その事務量は膨大です。私達とジャララバードオフィスが密な連絡をとって、事務業務に滞りがでて現場に支障をきたさぬよう心がけていますが、言葉の壁や、会って話せないことから食い違いも生じ、今回の来日は、それらを解消するために、共有事項の確認を行う大変貴重な時間となりました。一週間という短い時間のため、日中は視察し、移動時間や夜に話を進めました。

また、今回はＰＭＳ職員三名とペシャワール会の親睦を図るため、三つの小グループに分かれて交流会が開かれました。これはボランティアの方々のアイデアで、現地アフガニスタンのＰＭＳ職員と直接話をすることで、いろいろな質問をする機会となりました。「今まで写真や動画を通してみていた現地アフガニスタンの生活等を聞くことができ、遠い所で起こっていた事を身近に感じることが出来て、何かが動き出したような気がしています」と交流会に対して肯定的な感想を多く頂きました。他にも農業の事や現場の方々の話を聞いてみたいという意見も頂いております。

私はＰＭＳ支援室で働き始めてから、中村医師とＰＭＳの活動を通してアフガニスタンにふれる事となりました。それまでニュースで知るイスラム圏は、テロや戦争で治安がよくないと、ひとくくりに考えていた国々でした。アフガニスタンの干ばつの事も全く知りませんでした。

中村医師によりますと「これまでの三五年間で治安も天候も一番よくない」とのことです。例えばパキスタンに逃れた数百万人に及ぶ難民は、農業が出来ずにパキスタンに逃れるしかなかった人々です。その人たちが強制的に自国へ戻される事態がおこっています。彼らはどこに行ったらよいのでしょう。

今回の招聘で皆が真剣に取り組む姿が印象的でした。母国アフガニスタンをなんとかしたい。そういう気持ちの表れであったのだと思います。

▼未使用の切手、書き損じハガキ（官製ハガキ・年賀ハガキ）をお送り下さい

＊引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使わせていただき大変助かっております。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

＊当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願い致します。

アフガニスタンより政府、FAO、PMSの方々を迎えて

ペシャワール会会長
村上　優

平成三〇年七月二八日より八月四日の日程で、アフガニスタン政府（水・エネルギー省、地方復興省、農業・灌漑省）、またサジャパティ・スーマン氏らFAO、そしてPMSのジア先生をはじめとする事務・経理を主業務とするメンバーの一行九人が来日されました。

ジア先生らの訪日はFAOやJICA共同事業が始まってから三度目になります。顔の見える関係、こころの通う関係、ともに先を見据える関係作りを中村先生も強く希望されていて、比較的短い期間に密な交流ができるよう、招聘の任に取り組んでいただいたFAO及びJICA関係者に感謝します。

今回の来日の主な目的は、第一にはアフガニスタンの国としての灌漑や農業復興に直接携わる省庁の担当者に、山田堰を視察してもらい、灌漑の歴史や在り方、農作物の栽培から流通などに関して意見交換をすることです。

第二に、FAOの支援でミラーンに出来た訓練施設が活動を始めたこと、またPMS方式の教科書が完成したことを機に、江戸時代に完成し、二〇〇年以上にわたって使用されている山田堰と、PMS方式の中でも完成度が高いカマ第二堰との共通性を認識することです。

第三に、二〇年先を見据えたペシャワール会とPMSの絆を現実的、具体的に作るための人事交流でした。

七月二九日にペシャワール会主催で、来日された九人に対するレセプションが福岡

久しぶりに再会した村上会長とサーブルジャン
（2018年７月29日）

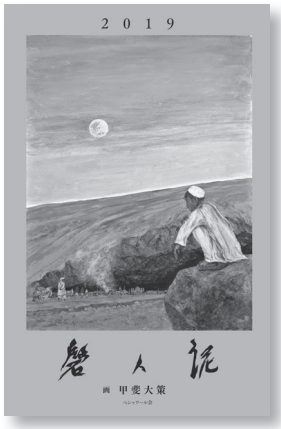
2019年カレンダー

「磐・人・泥」

画・甲斐大策

同封のハガキでご注文ください

B3判変形（画・7点）
定価1500円（税・送料込）



今年も恒例のカレンダーを制作します。部数に限りがありますのでお早めにご注文下さい（ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります）。
※代金は後払い。払込用紙を同封します
※郵便・宅配物の規格変更でカレンダーのサイズが一回り強、小さくなります。何卒ご理解下さい。

で開かれ、ＪＩＣＡや、現在マルワリード用水路などＰＭＳ方式での灌漑の調査や効果の評価などを行っているＣＴＩ社やテクノ社の方々も参加して行われました。元ワーカーや各地の支援会の方々、ペシャワール会事務局のメンバーも多く参加して心温まる交流会になりました。

七月三〇日からは山田堰で中村先生の講義につづいて意見交換が始まりました。朝倉市の林市長も出席、昨年の洪水の状況なども交えて説明がありました。いつも山田堰関連の視察をコーディネートしていただく山田堰土地改良区理事長の徳永さんが、今回も陣頭に立って下さいました。地元の熱い協力と中村先生との間に培われた信頼がＰＭＳ方式を創り出す原点とも感じます。

堰を前にしての質疑応答では、これまでの視察と異なり、行政的、技術的、地域づくりなど具体的なことが熱心に語られていました。干ばつや戦争などの混乱にあっても地域と国を再生させようとする意気込みを感じました。

続いて訪れた養蜂所でも大いに盛りあがりました。ＰＭＳ農場で栽培されているビエラはミツバチが好み、上質な蜂蜜がとれるそうです。今後養蜂に着手する予定ですので、ミツバチの飼育や蜂蜜の流通について、現地の人たちとの交流が期待されます。

中村先生とジア先生が率いるＰＭＳは、ハンセン病（らい）医療から難民・住民医療へと展開し、活動は井戸から用水路に至る水利事業や農業事業に広がりました。長い期間を通してアフガニスタンの地元に根ざした事業として続き、三五年が経ちます。近年では水利事業の一部分は、ＪＩＣＡとの共同事業となって結実しています。二〇一八年にはアフガニスタン大統領よりガジ・ミール・マスジッド・カーン勲章を受けました。さらに日本では土木学会技術賞を受賞しました。

八月二日には事務局で、ジア先生らＰＭＳの会計部門担当者とＰＭＳ支援室との協議、事務局メンバーとの現状認識の共有や意見交換を行いました。双方が二〇年先を見越しての関係づくりを目的に、忌憚ない意見交換をしました。アフガン現地でのＰＭＳの在り方について、国際ＮＧＯとしてのＰＭＳと、現場の灌漑工事をする部門との関係を整備する方向で検討が行われました。一方で、それを直接支えるペシャワール会のＰＭＳ支援室強化の必要性が迫られています。

短い期間の訪問でしたが、内容の詰まった交流ができ、今後のアフガニスタン政府、ＦＡＯ、ＰＭＳや日本側のＪＩＣＡとの課題も見えてきました。形や姿は変わってきても中村先生の変わらぬ志をサポートする思いを強くしています。

サファル・バハエル！（良い旅を）――34

ザフロン*の配達

甲斐大策

いつになく激しい驟雨の雨脚が、ペシャワル旧市街西端、ハイバル・バザールの路面に弾けては、気温四〇数度の中、霧のように白く中空を埋める。

スパイス商イスマイルは、店先のビニールの幕をとおし、通行人やリキショーを眺める。今日訪れる筈の徒弟は大丈夫だろうか、と案じていた。

店頭に佇む灰色の驢馬の伏せた睫を雨滴が伝う。

イスマイルの祖父は、カシュミルの藩王達による印度帰属の決定を機に、一家全員、ペシャワルへ移住、全財産を注いで英領時代名残りの小さなホテルを購入、細々と経営しながら、カシュミル出身者達の溜り場であることに満足していた。後を継いだ父は、六〇年代、Ｊ・ケルアックの「路上にて」を聖書のように崇める欧米の若者達のお蔭で、それなりにホテルの体面を保っていた。しかし、世界情勢の変化と、何よりも若い旅行者達の心の動きをつかめず、廃業する。イスマイルは、カシュミルに残っている一族と共に、ペシャワルでは入手困難なスパイス類を商い始めた。ペシャワル育ちのイスマイルは、パシュトゥンの剛直な精神や愚直な尚武の心や不器用さに、友愛の情をもっていながらもその食文化の粗鄙な部分に対し、カシュミリの食が保つ、印度ムガールが憧れたペルシャの香りの雅びの優越感を、秘かに思っていた。それが上質なザフロンを筆頭に、カシュミル産スパイス類の選択につながり、マッカ巡礼前後の人々や結婚式の慶事に不可欠の香料、と悦ばれるようになった。

「あ、来た、来た……。」

土砂降りの大通りを、大きな包みを頭に渡ってくる徒弟が見え、イスマイルは安堵する。月一度の、ザフロンの配達である。

*ザフロン＝サフラン

豊かな大地と幸せな暮らしを願っております

伊藤順子

伊藤和也さんが、二〇〇八年八月二六日にアフガンの地で凶弾に斃(たお)れて一〇年になります。伊藤さんのご家族に、和也さんへの思いとアフガンの人びとへの祈りの言葉を寄せて頂きました。

＊

我が家の庭にはあの日と同じ様に百日紅(さるすべり)の花が可愛いピンク色の花を咲かせています。

この十年の年月の流れは、私たち家族に色々な生き方を教えてくれました。

私達の知らない「伊藤和也さん」は五年半アフガニスタンで本当に命をかけて一生懸命生き、別れの言葉一つ残す事なく消えてしまいました。何を考え、何を生きがいにしていたか、私達家族は別れた後で知る事となります。和也の想いをつなげていくために何ができるか考え、「伊藤和也アフガン菜の花基金」を立ち上げました。

本当に大勢の皆様のご寄付を頂き、アフガニスタンの子供たちの為に、子供たちが将来食べ物に困らないために、大切に使わせていただきます。十年間ずっとご寄付を続けて下さる方や、振込用紙にお言葉を書いて下さる方がおいでになり、とても勇気づけられました。改めてお礼申し上げます。

「おかあさん、自分の幸せを祈ることもいいけれど、これからは世界の平和、世界の人たちの幸せを祈ることも大事だよ」

アフガニスタンに戻る朝、私に言いました。

「おかあさんはそんな立派な事は祈らない。只々、和也がアフガニスタンで無事でいてくれること、これしか祈ることはない」

そう言いたかったけれど言葉に出来ませんでした。言葉にすれば良かったと時々思うこともあります。

和也の想いは必ず繋げていくから

和也のペシャワール会に書いた志望動機を刻んだ慰霊碑を撫でながら、今は言葉に出して和也に伝えています。何ができるかアフガニスタンへの知識が少ない私にはわかりません。でも今まで素直に聞けなかったアフガニスタンの事、アフガニスタンの皆様の幸せの為に何ができるか私なりに考えていきます。

緑豊かな大地が戻ってきますように

人々が幸せな暮らしが出来ますように

皆様と共にお祈りしていきたいと思います。

菜の花基金への今までのご協力を感謝申し上げると共に、今後も宜しくお願い致します。

試験農場で茶の手入れをする伊藤和也さん

水のよもやま話(3)

クナール河と河童

PMS(平和医療団・日本)総院長／ペシャワール会現地代表　中村 哲

川にまつわる話で昔から登場するのが河童である。その存在を信ずる人々もまだ九州では多い。小さい頃、川や堤で泳ぐと、河童に溺れさせられると脅された。人間のお尻には「尻子玉(しりこだま)」という栓があって、水に漬かっても体に水が入らないようになっている。河童は泳ぐ子供に川底から近づき、悪戯(いたずら)にこの尻子玉を抜き取って溺れさせるのだそうだ。

九州の発祥地は球磨(くま)川で、九千匹の河童の頭領、「九千坊」が有名だ。加藤清正公は九千坊を嫌って筑後川の田主丸に追放、その後河童が川の守護神となり、水天宮に祭られたとも言われる。北九州では東郷や修多羅で河童の大群が争い、里人を苦しめたので堂丸総学という山伏が、生命をなげうって地蔵の中に封じ込めたという伝説が若松にある。その他、相撲を取ったとか、腕が水神社に奉納されているという逸話も残っている。九州には何故か、河童の話が非常に多い。その他、酒とキュウリを好むとか、仲良くなって助けてもらったとか、必ずしも恐ろしいイメージではない。カワウソ説や水子説もあるが、ここではご先祖さまの想像力を尊重して扱う。

河童は比較的新しい水の神で、中国からの渡来だと思っていた。中国の河童と言えば「沙悟浄」が余りにも有名だ。西遊記で三蔵法師のお供をして、サルの孫悟空、ブタの猪八戒と共に活躍する。

三蔵法師(玄奘)は唐の時代に仏典を求めてインドに入り、現在のパキスタン北部のギルギットへ立ち寄り、アフガニスタンを通って帰国する。とすれば、クナール河を横切ってカブール方面へ渡った筈だ――ここが空想の始まりだった。カッパの沙悟浄は水の妖怪で、人を呑み込む暴れ川、クナール河が棲家に相応しい。孫悟空の話もある。筋斗雲(きんとうん)に乗って世界の果てまで飛び、そこにあった棒に来訪の証拠を記した悟空は、お釈迦さまに得意げに伝えた。ところが、それは釈迦の指だったという話がある。

クナール河で40年以上、渡しを営む船頭(2016年10月2日)

この「世界の果て」は、明らかにヒンズークシの山並みだ。沙悟浄ゆかりの地がこの近くにあってもいい。

毎日働きに出るクナール河こそは、筑後川に連続する河童の世界ではないか。河童と言い、山田堰と言い、これも不思議なご縁だ。おまけに田主丸から嫁に来た家族もいるとなれば、いやがうえにも空想が空想を呼ぶ――これが「知らぬが仏」というもので、少し得々として、幸せな気分だったのである。

日本でこの話をしたところ、「沙悟浄は河

童ではない」という人がいて、調べて驚いた。西遊記の原作では、天帝の守護将軍だったが、ヘマをして天界を追われ、鞭打ち八〇〇回、七日に一度は鋭い剣で脇腹を突き刺されるという罰を受け続け、遂には流沙河（さが）という沙漠の川で人喰いの妖怪となって九人の高僧を殺すという、かなりひどい話。日本の河童とは違う。河童の別名、「河伯」の方は黄河の水神で、溺死した人が天帝から黄河の管理を任されたもので、機嫌が悪いと洪水を起こし、美人の生贄（いけにえ）を好んだ。この好色と乱暴さは、どうもカッパではない。

川幅を時には１km、時には約100ｍに変化させながら蛇行するクナール河取水口の斜め堰（2004年3月1日）

河童は日本生まれらしく、西遊記の沙悟浄となったのは戦前の昭和九年、少年向けの講談で「河童の沙悟浄」とされたのが最初だという。「水の妖怪で、河童のようなもの」ということだったらしい。確かに京劇の沙悟浄は、河童とは似ても似つかぬものである。

こうして「クナール河＝筑後川の河童道」のロマンはあえなく潰えた。しかし、大昔から川が人間の身近にあり、妖怪や水神を通して広く語られ、至る所で、人々に畏れと崇拝の対象であったことがわかる。水の妖怪も河童も、人為の及ばぬ神聖な世界からの遣いであった。クナール河に建設された九つの山田堰モデルは厳然としてあり、人里に恩恵を与え続けている。ＰＭＳと河童がうまくいっている証拠だ。沙悟浄に殺された九人の僧は、九つの取水堰に姿を替えて人々に救いの手を差し伸べているという話もできる。

このところ、日本の川も河童の影が薄くなっていた。明治維新以来の治水が奏功したと見られ、科学技術が河童たちを遠ざけていたのだ。しかし、それも限界を露呈した現在、もう少し足繁く出てきて、人間に川の怖さと恩恵を伝えて欲しいと考えている。

アフガンでの灌漑事業に多くの事を教えてくれる筑後川。日本の三大暴れ川の一つで「筑紫次郎」の名を持つ

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

＊ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです（払込用紙がついています）。ご希望の方は遠慮なく事務局にお申し越し下さい。パンフレットはＡ３変形を四折りしたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております（ポスティング等は行わないこととしております）。

●事務局長便り

＊二〇一一年三月十一日の東日本大震災後、熊本地震、九州北部豪雨に続き、今年に入って関西の地震、西日本全域での水害に台風被害、そして北海道での地震など異常気象と自然災害が相次いで発生しております。災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を願ってやみません。また、全国どこにおいても予測不能の災害が起こる可能性があります。日頃からの準備を心がけたいと存じます。

＊本文に報告がありますように、ＦＡＯ主催でアフガン政府関係者、ＦＡＯ職員、ＰＭＳ職員の来日研修がありました。ＰＭＳ職員と事務局との親睦も回を重ねるほどに深まっています。

＊今年の夏で、伊藤和也さんが亡くなって十年になります。事務局では八月二二日に和也さんを偲ぶ会を行いました。

●ＰＭＳ支援室より

七月末にアフガン政府やＦＡＯカーブル事務所の職員の方々と共に現地のＰＭＳ職員たちが来日しました。東ワーカーが述べているように、日本から現地への連絡や協議をする際、電話とメールでは難しい事が多々ありましたので、今回はＦＡＯのご厚意に甘え、ジャララバード事務所から会計責任者と事務所責任者を招聘して頂きました。福岡で彼らと意見の交換をし、問題点を共有できたと感じております。支援室職員の、覚えたばかりのパシュトーを駆使しての電話が、実際に顔を合わせる機会を重ねることに、まるでずっと前からの知り合いだったかのような親しみのあるものに変化してきています。現地ＰＭＳとの関係を今築き始めた支援室の職員が彼の地の状況を懸命に学習している姿に頼もしさを感じています。このような機会を与えて下さいました、ＦＡＯカーブル事務所の七里所長をはじめ皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

㋮村から――――――――♪

大名・警固・春吉とペシャワール会事務局に足を運ぶようになり、早六年ほどになります。きっかけは、関西で会社勤務していた一五年ほど前の事、中村哲先生の講演を拝聴し、心震えるほどの感銘を受けたことです。自分も定年後福岡に戻ったら、アフガンまでは行けなくとも何かの役に立ちたいと思っておりました。しかし福岡に戻り、実家の荒れ果てた農地を再生し、趣味としての野菜・果物つくりに時間・体力を取られるようになり、事務局での仕事は、年四回の会報発送時のみであります。皆さんの会話を耳にしながらの作業は、私にとって心地よい安らぎとなっています。会則の五条に「会員は、それぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由に…」という文言があります。これこそ我が意を得たり、時折野菜・果物の成果物を事務局にお届けしているのが、自分のささやかな役立ちであると思い、この猛暑の中で、毎日元気に汗を流しております。（Ｙ・Ｙ）

会　則

①本会の名称をペシャワール会とする。

②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な広報・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。

④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局を
〒八一〇―〇〇〇三　福岡市中央区春吉一―一六―八ＶＥＧＡ天神南六〇一号
TEL〇九二―七三一―二三七二　内におく。

現地報告会は、原則として六月の第一土曜日に開催いたします。

発行所●ペシャワール会　〒810-0003　福岡市中央区春吉1-16-8　ＶＥＧＡ天神南601号（４月に移転しました）
電話　092（731）2372　FAX　092（731）2373　郵便振替　01790−7−6559
発行日　2018年9月26日　No.137　会長　村上優　　現地代表・PMS総院長　中村哲　　事務局長　福元満治